ジェンダー研究所

2021 年度事業報告書によせて

グローバル女性リーダー育成研究機構長／理事・副学長 石井クンツ 昌子

2021 年度はお茶の水女子大学の第 3 期中期目標・計画の最終年度であり、2015 年度以降続いてきたグローバル女性リーダー育成研究機構のジェンダー研究所 (IGS) とグローバルリーダーシップ研究所 (IGL) の事業体制も最終年度を迎えました。そのため、2021 年度は両研究所共催のシンポジウムの開催や最終評価委員会の実施など、二つの研究所がコラボする機会に恵まれた 1 年であったと思います。

コロナの終わりが見えない 2021 年度でしたが、両研究所では所長、専任教員、特任教員、スタッフが力を合わせてシンポジウムやセミナー等をオンラインで開催するなど大変積極的に取り組みました。特にジェンダー研究所では前向きに研究活動や国際交流が継続されました。『ジェンダー研究』の特集号のテーマは「パンデミックとジェンダー：社会・政治経済の再構築に向けて」という時宜を得たトピックで、注目を浴びました。

他にもノルウェー科学技術大学 (NTNU) のジェンダー研究センターとの共同研究である「ジェンダー平等/ダイバーシティ：ノルウェー・日本共同研究」は『Comparative Perspectives on Gender Equality in Japan and Norway: Same but Different?』の出版で実を結びました。また、IGS と NTNU ジェンダー研究センターの研究教育交流をさらに発展させるため、ジェンダーおよびダイバーシティ研究教育の質を高める新しい教育戦略を構築する教育交流プロジェクトを立ち上げ、Norwegian Agency for International Cooperation and Quality Enhancement in Higher Education (DIKU) の UTFORSK プログラム助成金に採択され、2021 年度から開始しました。

2022 年 3 月にはグローバル女性リーダー育成研究機構の第 3 期中期目標期間最終評価が実施され、ジェンダー研究所では、政治・思想・生殖・身体などの観点からユニークな研究が進んだこと、複数の科学研究費事業が展開されていること、多くの優れた研究が行われていることなどが評価され、研究所の活動は全国的に見ても独創性の高い、日本を代表する研究機関として高い評価をいただきました。

2022 年度は第 4 期中期目標・計画の初年度ですが、新生グローバル女性リーダー育成研究機構ではジェンダード・イノベーション研究所が新設され、3 研究所体制でジェンダーに関連する研究や教育を開始しました。ジェンダー研究所は日本におけるジェンダー研究のハブ組織としてこれからも関連する事業や教育を積極的に進めてまいります。引き続き、ご指導のほどをどうぞよろしく願いいたします。

ジェンダー研究所2021年度の活動を振り返って

ジェンダー研究所長 戸谷 陽子

2021年度、新型コロナウイルス感染症パンデミック下での、ジェンダー研究所の活動も2年目となり、引き続き感染症対策に留意しつつ、所長以下、専任教員、研究員、研究系および事務系のスタッフが協力して研究活動および研究交流を進めました。日本におけるジェンダー研究の国際的研究拠点として、高水準の研究プロジェクトの実施、国際シンポジウム・IGS セミナー等の開催、学術雑誌の刊行、教育プログラムの実施、国際的学術ネットワークの構築、研究成果の発信と社会還元といった事業において、今年度もいっそうの成果を上げることができましたことをここに報告申し上げます。

2021年度も、オンラインを中心とした国際研究交流と、国際共同研究プロジェクトを推進しました。その成果は、IGS セミナー11件、国際シンポジウム3件、シンポジウム1件、国際フォーラム1件、研究協力員報告会1件、『ジェンダー研究』（特集：パンデミックとジェンダー）の発行という形で、結果として例年よりも数多くのプロジェクト成果に結実しました。事業内容はいづれも、政治・思想、生殖・身体、政策・労働、芸術・文化表象といった広く学際的な視点からジェンダー研究に接近するものであり、本報告書でぜひとも多岐にわたる内容・テーマで充実した本研究所の活動成果をご覧いただきたいと存じます。

2015年の本学グローバル女性リーダー育成研究機構開設時に、ジェンダー研究所はそれまでのジェンダー研究センターから発展的に改組し、あらためて機構の下での活動を開始しました。以来6年が経過し、2021年度は本学第3期中期目標・計画の最終年度の節目を迎えました。年度末には機構の活動を総括して報告し、それに対して実施された最終評価委員会では、当研究所のわが国有数のジェンダー研究拠点としての活動に対して高い評価をいただきました。本学はトランスジェンダー学生の受入制度を整備するなど、大学を挙げて男女共同参画社会の実現に取り組んでおります。こうした本学の取り組みや姿勢は着実に認知されており、ジェンダー研究所もその活動や取り組みを内外から期待されていることを実感しております。

当研究所の目的は「ジェンダーに関する総合的、国際的な研究および調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資する。」と規則に定めており、ジェンダー研究発展のための使命と責任を実感する次第です。これを基本理念として、今後も、確固とした学術的研究成果に支えられた、研究・教育その他の実践活動を推し進め、よりよき社会への還元と啓発を続けてゆきたいと考えます。日頃ジェンダー研究所の活動をご理解くださり、ご支援・ご協力をいただいておりますみなさまに心より御礼を申し上げますとともに、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。